

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

あ い
アブラハムの愛をた
か み
めされた神さま



^{ぶん}
文: Edward Hughes

^え
絵: Byron Unger; Lazarus

^{かいさくしゃ}
改作者: M. Maillot; Tammy S.

^{ほんやくしゃ}
翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

^{しゅっぱんしゃ}
出版社: Bible for Children

www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

^{きよか} 許可: ^{たにん} 他人に ^う 売らない ^{かぎ} 限り ^{はなし} このお話の ^{また} コピー、又はプリントは、
^{きよか} 許可されています。





よる かみ
ある夜のことは。神さまは、アブ
ラハムにとっても変^{へん}なめいれいをされ
ましたよ。それはね、アブラハム
かみ かれ
が、神さまよりもっと彼のむすこイ
ほう あい
サクの方を愛しているのかどうか
を、ためすことでした。



「あなたのむすこ、イサクをつれて行きなさい。そ
してイサクを焼^やいて、いけにえとしてささげなさい。
い。」神さまは、このようにめいれいされたので
す。えっ？イサクをささげるって？
かれのむすこを、いけにえにする
って？それは、アブラハムにとっ
て、本当^{ほんとう}につらいことでした。アブ
ラハムは、自分^{じぶん}のむすこイサクを
こころから愛^{あい}していたからです。



けれども、アブラハムは、^{かみ}神さまの^い言われることが、たとえよくわからなかったと

しても、ただ^{かみ}神を^{しん}信じることをよくしっ

ていました。^{あさ}朝のうちに、いけにえのイサ

^{ふたり}クをつれ、^{わかもの}二人の若者と^{やま}いっしょに、^で山へ出かけていきました。



で まえ や
出かける前、アブラハムは、焼いて
いけにえをささげるための火をおこ
すたきぎを、用意よういしました。アブラ
ハムは、ただ神さまにしたがうしか
ないと思おもいました。



みっか

やま ちか

三日たって、さあ、山に近づいてきました

わかもの

よ。「ここにいなさい。」アブラハムは、若者

い

たちに言いました。「わたしたちは、むこうへ行って

れいはい

礼拝します。ここにまたもどってきま

すからね。」イサクは、たきぎ

をはこびました。



ひ
アブラハムは、火と

かたな

刀をもちました。





「ねえ、お父さん、^{とう}焼^やいていけにえにする^{ひつじ}羊は、いったいどこにいるの？」イサクはききました。
た。「^{かみ}神さまが、ちゃんとじぶんで^{ひつじ}羊をよういしてくださっているんだよ。」アブラハムがこたえました。



ふたり かみ

二人は、神さまがちょうどえらばれたところへ、
やってきました。そこで、アブラハムは

さい

かみ

まえ

祭だんをきずき、神さまの前にささげるいけにえを
も
燃やすためのたきぎをくみたてました。アブラ

さい

ハムは、いままでたくさんの祭だんをきずいて

さい

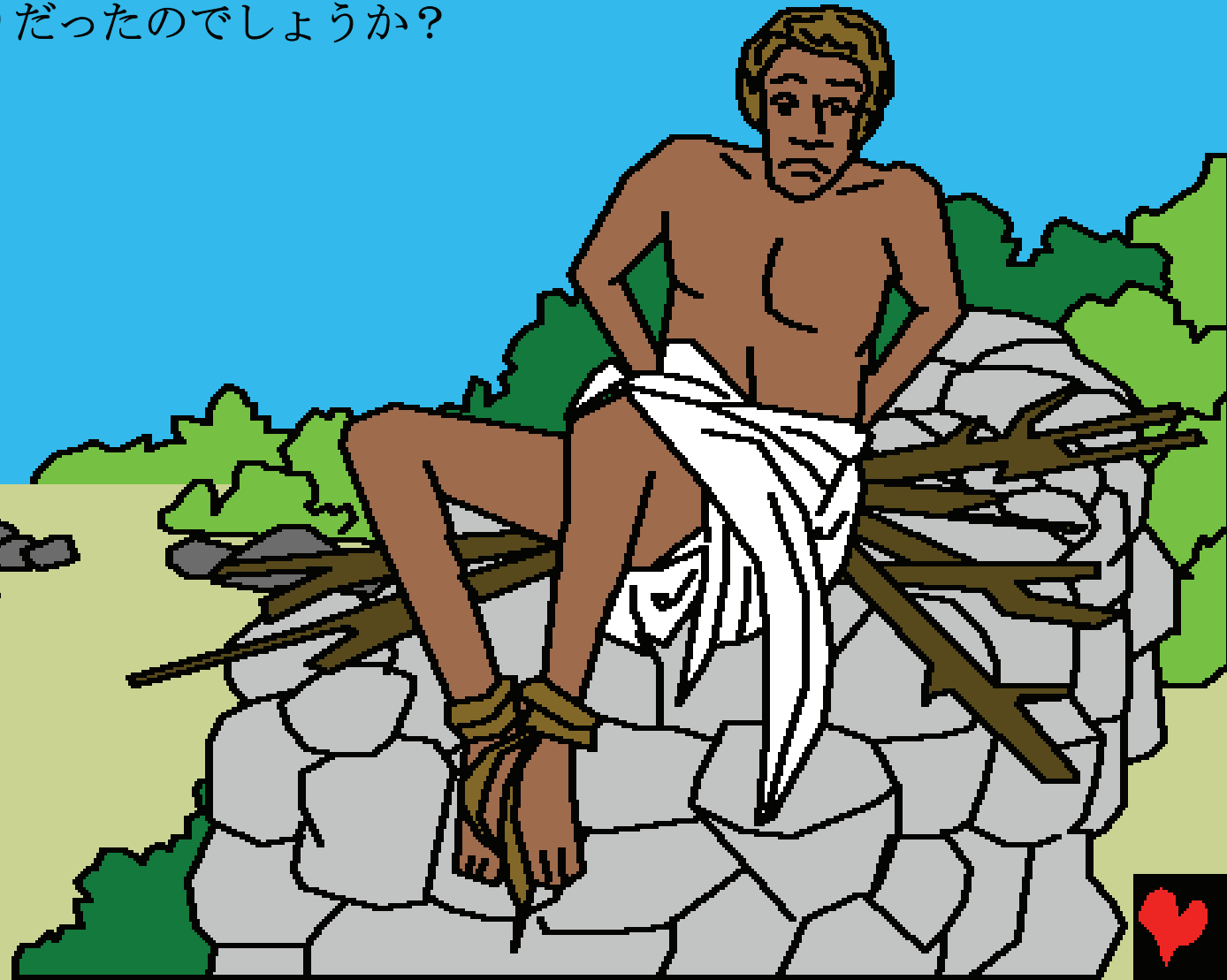
きました。でもきつと、この祭だんづくりほ

くる

ど、苦しいものものはなかったでしょう。



アブラハムは、かわいいかわいいむすこイサクをしばりあげ、^{さい}祭壇の上においた
のでした。アブラハムは、ほんとうに^{かみ}神さまの^い言われるとおりに、^{ところ}心から^{あい}愛する
^{ひとり}たった一人のむすこを、
いけにえにするつもりだったのでしょうか？





そうです。アブラハムが、ナイフを^{たか}高く
ふりあげたとき、ナイフの^は刃が、キラキ
^{ひか}ラ光^{しん}っていました。アブラハムの心ぞう
は、^{かな}悲しみでいまにもほりさけそうでした。
しかし、アブラハムは、^{かみ}神さまにしたがわなければならないと、はっきりわ
かっていました。





「やめなさい。！」

しゅ

主のつかいがさげび
ました。「アブラハ

しゅ

ムよ、いま、あなたが主を
おそれていることが、はっ
きりわかった。あなたは、

じぶん

自分のむすこ、たった

ひとり

一人のかわいい

むすこさえ、わたし
のためにおしま
なかつた。」



ふと、木のしげみの方を見ると、一匹の羊がいる
ではありませんか。アブラハムは、イサクのなわを
ほどき、かわりに羊をいけにえにしましたよ。た
ぶん、イサクは思ったでしょう。「神さま
は、ちゃんとなにもかも用意してくだ
さるのだ。ちょうど、ぼくのお父さんが話
してくれたようにね」。



ちち こ れいはい しゅ はなし
父アブラハムと子イサクが礼拝しているとき、主のみつかいがアブラハムに話か

けられました。「アブラハム、あなたが**神**にしたがったので、あなたの子どもた
くに しゅくふく ひ
ち、すべての**国**は、**祝 福**されるであろう。」いつの日
にか、アブラハムのしそんから、イエスさまが、
う
お生まれになることでしょう。



こうして、アブラハムとイサクは、**元気**に**家**にもどってきましたよ。それから**何年**
かたって、とても**悲**しいことがおこりました。サラが**亡**くなってしまったのです。
アブラハムはつまを、そしてイサクはお**母**さんを**亡**くしてしま
いました。



サラのおそうしきのあと、アブ
ラハムは、しもべの^{ちょう}長にイサクの
およめさんになる人^{ひと}を、さがしに行か
せました。そのしもべは、アブラハムのしんせきの^{なか}中か
ら、イサクのおよめさんをさがそうと、アブラハムの^う生まれ
たところへでかけました。



しもべは、「^{かみ}神さま、どうぞしるしを^み見せてください。」といのり、またこう^い言
ました。「わたしのつれてくるラクダにも^{みず}水をくださる^{おんな}女の人^{ひと}が、イサクのちよ
うどぴったりのおよめさんになりますように。」すると、どうでしょう。しもべが、
こう^{いの}祈りおわらないうちに、リベカが^{みず}やってきて、ラクダたちに^{はじ}水をくんでやり^{はじ}始
めたではありませんか。リベカは、アブラハムの^{ひと}しんせきの一人^{かみ}でした。神さ

まは、しもべの^{いの}祈りをき
いてくださり、

こたえてく
ださったので
すね。



リベカは、イサクとけっこんするため、お父^{とう}さんやお母^{かあ}さんのもとを、
はなれました。そしてかのじょは、イサクのお母^{かあ}さんが亡^なくなったあと、
イサクをやさしくなぐさめてあげました。イサクは、リベカが
だいす
大好きでしたよ。



あい かみ
アブラハムの愛をためされた神さま

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう
創世記 22 章 -24 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていてらっしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ
けれども、神さまは、あなたをととても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
つみ つみ し
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
てんごく
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいますなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ
い
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた
いのち ところ い
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる
こ い
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

